

本誌はネイチャーゲームの奥底にある“Sharing Nature”（シェアリングネイチャー）をテーマに
自然と人のつながりやつき合い方を見つめる情報誌です。



特集 福島第一原発事故から1年 ネイチャーゲーム活動と 放射線被曝の問題



P.1 日本の民話から「佐保姫」

ネイチャーゲームの森 77号

ネイチャーゲームは米国のナチュラリスト ジョセフ・コーネル氏により発表された活動です。
みる・きく・さわる・かぐなど、私たちひとり一人が持っている感覚を使って、楽しみながら自然を体験する活動です。

日本の民話から「佐保姫」	1
シェアリングネイチャーを深めよう	5
テーマ別実践ヒント《動物園》	6
達人から学ぶ「遊び心をもつ！」	7

自然を丸かじり《自然あそび歌を楽しもう!》	8
ネイチャーゲームでひろがるつながる《エコツーリズム》	8
ネイチャーゲーム川柳	10

日本の民話から Vol.4

日本の民話には、自然の化身ともとらえられる妖精や妖怪が多く登場します。

彼らと人間との関わりから自然と人のつきあい方を考えてみませんか。



写真／菜ノ花畑と岩木山（青森県）



【佐保姫】

古来より、奈良の東に位置する佐保山の神霊を、春の女神として信仰してきた。秋の女神竜田姫と対になり、記紀（古事記と日本書紀）に彩りを添える。

文・高畑吉男
イラスト・井上みさお

佐保姫の系染め掛ける青柳を
吹きな乱りそ春の山風

—平 兼盛—

うららかな春。陽射しも山々も、囀る鳥たちの声もまたのどかな季節。古来、日本人は長い冬の眠りから覚め、芽吹き、色を取り戻す野山の景色を、春の女神が織りなした衣にたとえてきました。その女神の名前は、佐保姫。佐保山の女神として、また機織りの女神として信仰を集めました。三十六歌仙のひとり平兼盛も「柳にかかる、佐保姫が染めた春の糸を、どうか吹き乱さないでくれ、春の山風よ」と歌に詠んでいます。野辺に出て、佐保姫が織った春の衣を見つけないか？



Special feature -16

福島第一原発事故から1年

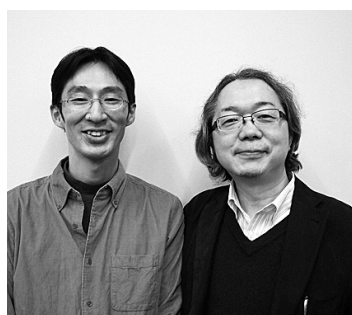
ネイチャーゲーム活動と放射線被曝の問題

取材・文／伊東久枝
取材協力／朝岡幸彦
写真提供／日本協会
構成／編集部
内田 隆

子どもたちに豊かな自然体験を提供し続けるために今、指導者ができることを考える

東日本大震災を引き金に起きた原発事故から1年。未だ収束をみない放射線被曝問題は高濃度汚染地域圏外でも高い関心をもたれ、被曝を恐れて屋外での自然体験活動を控える風潮がみられます。日本ネイチャーゲーム協会の会員アンケートでも、「事故後屋外プログラムへの参加者が減った」「学校やイベント主催団体から室内プログラムに切り替える要望が増えた」など、一部に自然離れが起きていることがうかがえます。

このようななか、子どもたちを自然から遠ざけないために指導者がすべきことを考えようと、2月5日東京・代々木で『放射線と自然体験活動を考える会』を行いました。



右：朝岡幸彦（あさおか ゆきひこ）

新潟大学文学部経済学科卒業、北海道大学大学院教育学博士課程終了。室蘭工業大学工学部講師、東京農工大学農学部助教授等を経て、現国立大学法人東京農工大学大学院農学研究教授。日本環境教育学会事務局長も務める。

左：内田 隆（うちだ たかし）

明治大学農学部卒。立教大学異文化コミュニケーション研究科修了。乳業メーカー勤務後、高校の理科教諭となり、上尾東高校、大宮工業高校、浦和第一女子高等学校を経て、現在志木高等学校で教鞭をとる。日本環境教育学会会員。



もうひとつの「沈黙の春」… 人だけがない風景

放射線被曝問題と今後の自然体験活動を考えようと開かれた研究会『放射線と自然体験活動を考える会』には、全国各地のネイチャーゲームの会員に加え、他団体で自然体験活動を行う指導者の方など総勢70名余りの方が集まり、情報の提供と率直な意見交換が行われました。

研究会のテーマは、放射線被曝問題が騒がれるなか自然体験活動をやるかやらないか…ではなく、「やるために指導者は何をすべきか」です。

この4時間にわたる研究会で印象的だったのは、講師を務めた東京農工大学大学院の朝岡幸彦教授が紹介した1枚の写真。そこには桜がほころぶ農村の風景が写されていました。原発事故から2か月後の、計画的避難区域に指定された福島県飯館村の写真です。

「一見日本各地どこにでもある農村の風景です。新緑に桜がほころび、鳥も虫も家畜もいる。ただ人だけ活動をやめ沈黙をした不思議な風景でした。私たちが今目にする風景は、長い年月をかけて人が自然に働きかけつくってきた自然です。いわば私たちは昔の人の成果を享受しているといえます。そのような歴史のなかで、今人間が自然との関わりをやめることは異常です」と朝岡先生はいます。

「自然体験がもたらすものは、被曝が与える負を引いても余りあることは明確です。だからといって何も気にせず自然体験を行うことがいいとはもちろんいえません。人類が経験したことのない状況のなか、いかに賢く生きていくのか。そのためにすべきことを考え、議論していくことが大切でしょう」



野外活動指導者約70名が参加した『放射線と自然体験活動を考える会』の様子。講師の講義、測定器を使っのフィールド測定、グループワークが行われ、有意義な会となった。

つまり、リスクマネージメントを身につけて暮らすことが重要なのだということです。放射線測定器を使って活動場所の数値を測り、リスクを小さくする習慣をつける。これは不安を抱く人に対し、科学的データに基づいた根拠のある説得材料となります。

「被曝リスクは低いほうがいいことは確かです。ただし自然界にも放射線はあるので被曝線量は0にはならない。放射線被曝は遺伝子に影響を与える可能性があるため、世代を超えた影響がでないといえることができません。検証データは現時点のものでしかないため、『これなら安全！』という基準が専門家も出せないのです。だからといって、過剰に根拠のない不安や心配をするのも賢いとはいえない。放射線被曝問題は正解がわからないなかで、自分なりの判断をしていくしかない。そのために正しい知識をつけ、科学的データを集めることが大切なのです」

朝岡先生の話聞きながら、放射線被曝問題は私たち日本人に、主体性を持った思考と判断力の鍛錬を突きつけているようにも思えました。

放射線は本当に怖いのか

放射線被曝は線量や状況によっては、人体に甚大

な被害を及ぼす恐れのある慎重に考えなければならぬものです。しかし、現在被曝問題に不安感を抱く人のなかには正しい知識をもたないために「必要以上の不安感にさいなまれ、ストレスを持って暮している人がいる」のも否定できません。

そこで今回の研究会では、日本環境教育学会会員で志木高等学校の理科教諭を務める内田隆先生に「放射線の基礎知識」のレクチャーをしていただきました。参加者からの活発な質問や意見にも分かりやすく解説をいただき、予定時間を大幅に超える充実した質疑応答がくり広げられました。

その一部をご紹介しますと…

- 放射線被曝による健康被害は、自然界のものも人工的に取り出されたものもシーベルト(Sv)の数値が同じであれば同じ。

- 放射性物質によって、半減期は異なる。ヨウ素は短かいため、すでに問題にされなくなった。今残っているセシウムなどは半減期が30年以上と長いため、継続してデータをとっていくことが大切。

- 自然界に放出された放射性物質は、基本的には水に流れて徐々に拡散して薄まっていく。

- 世界的に見ると、自然放射線量の高い地域(ブラジル・ガラパリ)の年間被曝量は10mSvあり、世界平均でも2・4mSv。

- 日本は自然放射線の被曝量が少なく、平均の年間被曝量は1・1・5mSv。国内でも差があり、基本的に東日本よりも西日本のほうが2・3割高い。

- 1回の胸部CTスキャン検査の被曝量は6・9mSvで、0・5μSv/時の地区に1時間いて受ける量より大きい。

このような質疑応答を終え、内田先生は被曝地を抱えた日本でこれから必要なことは、やはり正しい



放射線測定器『はかるくん』（市販機種名：PA-1000）は、文科省や自治体でも貸し出しをしている。日本協会でも2台所有しているのでレンタル希望の方はお問い合わせください。

知識と情報、そして判断する力だといいます。「活動地域の放射線量を測ることは、指導者がフィールドを把握し、納得するためのものだと思います。自分が使っているフィールドのどこに鳥の巣があるか、日陰や日向ができるのか、そのような情報のひとつに今後は日々の放射線量を入れていけばいいのではないのでしょうか。放射線被曝の問題はイメージ先行で話されることが多いように感じます。これからは科学的判断をしていくことが大切でしょう」

そして、放射線被曝問題で忘れてはいけないもうひとつのこと。それは高濃度汚染地域で避難をしいられ、また除染をくり返す環境で暮らしている人が今もいることを忘れず、その人たちの不条理さをわかちあうことだと、2人の講師は口をそろえます。それができなければ被災地の人は前には進めないだろうと。朝岡先生がレクチャーのなかで話された言葉が心に残りました。「いちばん難しいシェアリング、それは苦しみのわかちあいなのです」

科学的判断と、苦しみのわかちあい。明るい未来を見据え、私たちひとりひとりがその賢い選択をできるでしょうか。

「放射線の基礎知識」

○放射線とは

すべての物質はさまざまな「原子」からできています。そして「原子」のなかには不安定なものがあつて壊れることがあります。原子が壊れるときには「原子のかから（粒子）の性質をもったもの」や「エネルギー（電磁波）」が出ます。これが「放射線」と呼ばれるものです。つまり、放射線は量の差はあるものの、身の回りのほとんどの物質から出ています。また、宇宙からも放射線が常に地球に降りそそいでいます。

とくに不安定な原子が多く存在するのが、ウラン、トリウム、カリウム、ラジウムなどの原子です。そして自然界には、これらの原子を多く含む石が存在します。

○放射線にはいくつかの種類がある

原子が壊れるときに出る「かから」や「エネルギー（電磁波）」のことをまとめて「放射線」と呼んでいるため、放射線にはいくつかの種類があり、人体に影響を与える強さや、影響を与える範囲などに差があります。

○放射性物質と放射能

「放射性物質」とは「放射線を出す性質をもった物質」のこと、一般的にはウランやトリウムなどを多く含む石など、多くの放射線を出す物質のことをいいます。

この「放射性物質」の「放射線を出す能力」を「放射能」といい、Bq（ベクレル）という単位で示します。

そして現在、原子炉や核爆弾などで使用されている「放射性物質」は、天然の石から壊れやすい原子だけを集めて凝縮した「人工的な放射性物質」で、天然の放射性物質よりもはるかに高い「放射能」を持っています。

○人体への影響を表す単位Sv（シーベルト）

放射線が人体に与える影響は、放射線の種類によって異なるため、放射線の量や放射能（放射線を出す能力）の大小（単位…Bqベクレル）だけではわかりません。そこで、それぞれの放射線による人体への影響の差を加味した、統一の単位がSv（シーベルト）です。

よく使われるのが、1時間あたりの被曝量（h、/時）

と総量（合計）で、h、/時」などがない場合は、一般的に「1年間の被曝量」を示しています。

1時間あたりの被曝量
(例:0.05μSv/h) から
総量（年間被曝量）を
計算する方法

0.05μSv/h（1時間
あたりの被曝量）×24
（時間）×365（日）＝
438μSv＝0.438mSv

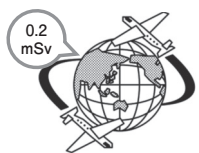
※単位：n（ナノ）→μ
（マイクロ）→m（ミ
リ）K（キロ）→M
（メガ）→G（ギガ）
それぞれ、0が3つ付
くと上の単位に昇格す
る。

○医療や産業で広く利用されている「放射性物質」

放射性物質は、原子力発電のほか、「放射線」の高い透過能力を使ってレントゲンや非破壊検査を行ったり、遺伝子（DNA）を傷つける性質を用いてジャガイモの発芽防止や医療器具の殺菌を行うなど、私たちの身近なところで広く使われています。

放射線被曝量（参考：「原子力・エネルギー図面集 2012」）

東京⇄ニューヨーク（往復）
航空機旅行



1人あたりの
自然放射線（年間）
（世界平均）



胸のX線
集団検診（1回）



胸部X線 CT スキャン
（1回）



〈会員アンケート「原発事故以降の変化」より〉
○行政主催の行事が中止になり、頼まれていた講師活動ができなかった。
○落ち葉にさわるのはよいが、大地の窓は避けようとする。
○まちがった認識がメディアで伝わり、自然を怖がる状況が出てくるのが怖い。
○口に入れた活動は積極的にすすめるようになった。
○活動内容を迷う事が減った。
○主催者から落ち葉や土に接する活動がなくなった。
○地元の小学校の年4・5回あった里山保全活動の回数が減った。
○自然体験活動を推進する者として、放射線問題に関する認識をもち、正しい情報を伝達していく義務を感じる。
○保護者がいかに安心しなくては、その情報提供としてのくみづくりが必要。
○放射線の影響（特に子どもたち）を極力減らし、自然とふれあいたい（機会）を守ってきたい。

〈感想〉
○関西以南では、市民の危機感が高く、活動にも影響はないように見えるが、アンケート回収率の高さから見ても、指導者の関心が高まっているように見える。
○知識や情報が不足しているため漠然とした不安を持っているように見える。

シェアリングネイチャーを深めよう

ジョセフ・コーネルからの メッセージ

vol.7

新たな本の
出版に際して

翻訳：藤牧智子（本文）
翻訳：吉田正人（＜自然とわたし＞引用部分）



『シェアリング・ネイチャー 自然のよろこびをわちあおう』5月より発売開始！

Joseph Cornell's Message from Ananda



Joseph Cornell

ジョセフ・コーネル

1950年米国カリフォルニア州生まれ。野外教育インストラクターを経て、1979年『Sharing Nature with Children』を発表。現在、世界的なナチュラリストとして活躍。米国アナタ村で瞑想やヨガ、菜食主義を取り入れた自然と調和する日常生活を送っている。シェアリングネイチャーワールドワイド会長。(社)日本ネイチャーゲーム協会名誉会長。

日本ネイチャーゲーム協会が、75あまりにおよぶ私のアクティビティを収録したネイチャーゲーム1&2（合併本）を出版することをとてうれしく思っています。本のタイトルは、『シェアリングネイチャー』自然のよろこびをわちあおう』といい、これまでの本には収録されていない8つの新しいアクティビティ、『How Close』『Observe Nature Like John Muir』『Im Curious About』『Trail of Beauty』『I Can See』『I Am the Mountain』『The Vibrant Peace Walk』『Nature and Me（自然とわたし＝旧タイトル『Nature in Me』）』が加わります。下記はこの新しい本からの一節です。

わたしが、『自然とわたし』を初めて体験したのは、カリフォルニア州北部にあるピドウェル公園のことでした。妻と私は、みずみずしい緑に縁どられた美しい溪流のほとりに座っていました。川面にはカゲロウが飛び交い、吹くたびに風は大きな葉を揺らし、滝から落ちる水音は渓谷に響き渡ります。この簡単な活動は、私たちを取り巻く生命の存在をありありと気づかせてくれました。

＜自然とわたし＞を体験した後、私たちの心には静穏が保たれ、感覚が鋭くなっていました。溪流沿いに歩き始めた私たちは、茶色に灰色がかった二つの影が流れの中を泳いで行くのを見ました。なんとカワウソではありませんか！川の水の模様にもごとに同化して、カワウソを見ることは容易ではありませんでしたが、カワウソが泳ぎながら遊び回

る様子を10分間観察することができました。この間、40人程の人々が通り過ぎましたが、誰もカワウソを見つけた様子はありませんでした。私たちが、『自然とわたし』を体験していなかったら、カワウソを見つけることはなかったでしょう。

新しい本のネイチャー・アクティビティは、フロラーニングの4つのステージに基づいて構成されており、アクティビティがより探しやすく、使いやすくなっています。新しい本の中でも繰り返し強調している通り、シェアリング・ネイチャーのユニークな点は、フロラーニング戦略です。私の最初の著作、『Sharing Nature with Children（ネイチャーゲーム1）』は、『自然教育界における世界的な革命を起こし』、2作目『Sharing the Joy of Nature（ネイチャーゲーム2）』は、その方法論を体系化しました。今回の本は、これらの数々のすばらしいネイチャー・アクティビティをフロラーニング・システムに基づいて、日本の読者の皆様にご紹介するものです。

ドイツの合併版には、『シェアリング・ネイチャーのワークシヨップを体験した後……これまでの自分とは違う自分になっていた』『学びについて新たな理解を身につけることが出来た』というコメントがあります。フロラーニングは、自然についての教え方に革命を起こしました。教育者は、この方法を使うことにより、人々の意識を高めるダイナミックな上昇気流を起こし、より深い理解を育むことが出来るのです。

先日、インターネットでちょっと検索してみたところ、100以上もの機関がそのプログラムにフロラーニングを導入していることを知りました。米国国立公園局は、ナチュラリストの育成やカリキュラムの開発においてフロラーニングを推奨しています。同局は、マリア・モンテッソーリ、ジャン・ピアジェ、ハワード・ガードナーと並ぶ5つの教育理論の1つとして、フロラーニングを挙げています。私はかつてスイスの教員養成大学でスピーチをしたことがありますが、教授たちはその効果にとっても興奮し、その1人が『フロラーニング以前の日々の暮らしはどんな風でしたっけ！』と熱っぽく声をかけてくれました。

フロラーニングに力点を置いていまして、まったく新しいシェアリング・ネイチャー・アクティビティも収録されたこの新しい本は、経験豊富なネイチャーゲーム・リーダーたちにとっても、貴重な1冊となることでしょう。

マリア・モンテッソーリ

1870-1952

イタリア初の女性医学博士、幼児教育者。モンテッソーリ教育法の開発者。著書『子どもの発見』他

ジャン・ピアジェ

1896-1980

スイスの心理学者。乳幼児の「思考発達段階説」を提唱した。著書『思考の心理学』他

ハワード・ガードナー

1943-

アメリカの心理学者。「多重知能（MI）理論」を提唱。著書『MI:個性を生かす多重知能の理論』他

Naturesame テーマ別 実践ヒント

今回のお題は、動物園

動物園では、普段会えない動物の行動や生態をじっくり観察できます。動物園でネイチャーゲームをやってみませんか。

取材・文 大地佳子



動物園の来園者が一つの動物の前にいる時間は、実は平均30秒くらい。でも誘導次第で、小さい子どもでもその時間は30分、40分になります。ネイチャーゲームを導入で行くと「楽しみながらいつの間にか集中して観察していた」という状態に出来るので、アレンジして活用しています。例えば観察テーマを「口」「しっぽ」「目」あるいは「歩き方」など、絞ることが効果的です。動物園は、動物の生態・行動を知る前に、まず「見る」力を身につける良い場です。動物園見学では「触らせて」という要望も多いのですが、それは観察が十分できてから。発見から生まれた生き物への関心を丁寧に分かち合うことで、野生への想いに繋がたいと努めています。



萩埜恵子さん
(千葉県：東京動物園協会)

動物園で「観察する力」を養おう！

この分野のポイント

- ・テーマを絞り、十分な時間をかける
- ・「食べる」など人の生活に関連づける
- ・動物それぞれが持つ動きのリズムに注目

おすすめアクティビティ

- 動物系：＜ノーズ＞＜私は誰でしょう＞＜動物紳士録＞＜動物ジェスチャー＞＜動物質問室＞＜ミステリアニマル＞など
- アレンジ：＜フィールドビンゴ＞（動物種や季節行動などテーマを限定）、＜木へのインタビュー＞（動物にアレンジ）など

私たちも実践しています！

峯岸由美子さん

(東京都：一般社団法人遊心 代表)

幼児親子対象の動物園でのプログラムでは、例えばテーマが口の時は、参加者が自身の口の動きを体験後、＜フィールドビンゴ＞で動物の口の形や食べる行動を観察します。テーマを絞り、子どもにペースを合わせ、親が子をフォローする機会もつくります。家族一緒に何度も動物園を楽しんでほしいです。



宮本雅行さん

(広島県：日本協会専務理事／広島県協会理事長)

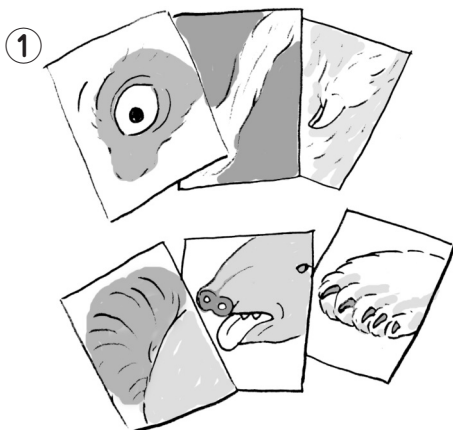
地域の会で、動物園でのネイチャーゲームを行いました。園の協力を得て飼育員さんにも参加してもらうことで、私たちにない専門的な視点が加わりました。＜動物紳士録＞でペンギンを演じるのに寝転がった子がいましたが、そのペンギンの行動を飼育員さんが解説し、体験が深まりました。



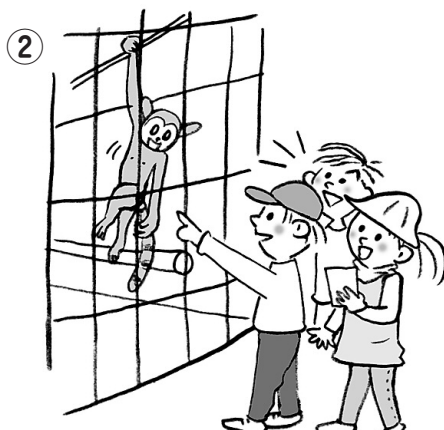
おすすめの ネイチャーゲーム 《スナップショット》

実施
の
ポイント

- ・動物の特徴的な部分を拡大写真にする。
- ・似ている動物の違いに気づかせたり、目など一部分だけをテーマにしてもよい。
- ・広い動物園では、エリアを限定して行う。
- ・正解にこだわらず、わかちあいを大切に。



動物の体の一部を拡大した写真を数種類つくり、同じものをグループ数分用意する。



各グループに1セットずつ拡大写真を配り、それぞれが何の動物の拡大写真なのかを、園内から探してもらう。



集合後、動物の体全体の写真を見せて答え合わせをし、参加者が気づいたことや発見したことを共有する。

達人

から学ぶ

【その十六】

ネイチャーゲームトレーナー
青山裕子さんの巻



あおやま ゆうこ

楽しそうな笑い声と跳ね回っている子どもたち…その光景に心地良さを感じている自分に気づいたとき、もっとこの幸せを広げたいと思い、仕掛けづくりを楽しんでいます。

遊び心をもつ！

●遊び心はいと楽しい

我が家の庭先にはいつも「ヘカモフラージュ」グッズが置いてあります。公園通いの親子、通学の小学生たちが「木にピンクのボタンが登ってる」「あの鳥、本物？」などと話しているのを家の中から聞いて、ニコニコしています。ある時、私が仕掛けたグッズを探していて、本物のドングリを発見した親子と話しました。公園にドングリの木がないのでうれしかったと、小さな手でドングリをプレゼントされました。またある時、引率の先生が小学生に「おーい、見てみる。この木にリングがなるか？」と大声で言っていました。いたずらを叱られたようにドキッとしたが、懲りずにグッズを仕掛けて楽しんでいました。

そんな「ヘカモフラージュ」歴は随分長いですが、最近上手が現れました。毎朝、グッズの確認をする、元の場所から移動して、私が「ヘカモフラージュ」をやらされているのです。犯人は、キジバトかしら、野良猫かしらと推理するのも楽しいものです。グッズを見つけた人にとっては嬉しい笑いがうまれば、とても幸せな気分になります。私は達人ではなく、どこにでもいる「笑わせ隊」のメンバーなのです。

●会話や活動にユーモア感覚を

プログラムを進める中で私が気にかけているのは、何気ない時間を楽しくすることです。ゲームのつなぎや休憩後の短い間（ま）で、会話にユーモアを効かせます。例えば、

イベントや暮らしの中でネイチャーゲームを行うとき、遊び心をもつことで、より一層自分自身も周りの人たちも笑顔になれる！どうすれば遊び心をプラスできるの？青山さんからのメッセージです。

ふざけた子どもが黄色い葉っぱで私の頭をたたいたら、間を置いて、「その葉っぱ、さつき黄色いペンキ塗ったばかりなの」と真面目そうに言います。子どもは思わず笑い、いたずらをやめてくれました。ふざけた流れに水を差したのです。また、年配者を対象に「森でタツノオトシゴ探し」というテーマで活動した時のことです。小枝や葉にタツノオトシゴの形を探し、海の絵に貼りつけます。それぞれ自分の探してきたものがタツノオトシゴ形だというアピール合戦が始まります。遊び心は、参加者のユーモア感覚を引き出し、緊張を和らげたり、間延びした活動の修正にも効果的です。根底には常に参加者に「楽しんでもらいたい」というサビス精神があります。

●5つのルールに通じるユーモア感覚

ユーモアをもって会話や活動をするのはなぜでしょう。「楽しんでもらいたい」から始まり、それぞれが「自分で楽しむ」に変化します。その姿を見て、自分も幸せを感じられるという楽しさの連鎖が生まれるからだと考えます。それは指導員の5つのルール「楽しさは学ぶ力」につながります。ユーモア感覚は周囲を観察し、楽しい会話や活動で柔軟に人をつなぐ力をもっています。それは「楽しさは学ぶ力」以外の指導員の5つのルールの中にもみることができ、ネイチャーゲーム指導員はすべて遊びの達人になれると言えるでしょう。



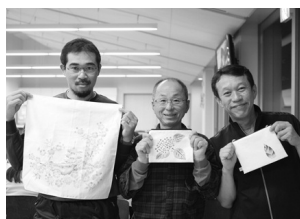
京文化体験セミナー

2012. 1/7(9)

小畑孝二(兵庫県)

自然と共にある京都の文化に触れることができた素敵な3日間でした。魅力的な和と三昧のプログラムで、中でも特に印象的だったものが3つあります。1つ目は、祇王寺の庭を創りだす昔のよさに改めて気づかされたことです。小さな苔にもたくさんの種類や特徴があると知り、興味関心が広がりました。

2つ目は、京友禅という手法で自然を意識して染色をしたことです。3つ目は、京菓子資料館で和菓子を作ったことで、四季の移ろいを色や形に託す京菓子の魅力に引込まれました。今回の体験を活かし、自然との関わりを生活の中に取り入れていきたいと思いました。



京都の文化から季節を感じる

別冊アクティビティ編セミナー※

2012. 2/12 堀田美穂(東京都)

今回のセミナーへは、まだ知らないアクティビティを体験できるいい機会だと思い参加しました。講師は大木潤子さんと北村允彦さんでした。ユーモアを交えながらのへしぜんのだいきさいがしは、幼児でも自然の中の相互作用を学べるアクティビティだと思いました。午後からは、「木のセリフ」などを体験しました。参加者みな、一所懸命に木のセリフや名前を考え、自然の中の対象物と向き合うことができました。最後の話し合いの時間には、参加者から色々と質問が飛び交いました。講師や参加者の方々からヒントを得る事ができた、有意義なセミナーでした。



4/30東京、9/30京都でも開催予定！！

※このセミナーでは、過去の自然案内人に掲載されたアクティビティが体験できます。

募集中

このコーナーでは、全国の「達人」情報やリクエストを募集しています。ある分野でのネイチャーゲームの達人、熟練指導員の達人技、あの人の技を聞いてみたい…どしどし応募ください。
mizushina@naturegame.or.jp

自然あそび歌を
楽しもう！

取材・文 水信 亜衣
写真提供 大河内康弘

ネイチヤ
たんけん

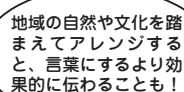


キッズスマイルカンパニー
アーティスト、愛称「ネイ
チャー」。自然あそび歌作
家、保育士（東京都）
大河内康弘さん

CDもあるよ！

キッズスマイルカンパニーHP ⇒<http://kidssmilecompany.com/> 【ネイチャーたんけん動画がダウンロードできます！】

- 1 わたしの木
- 2 フィールドビンゴ
- 3 ノーズ

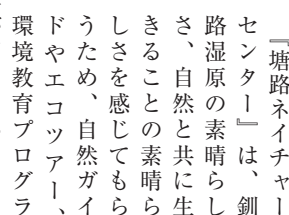


💡 ネイチャーゲームで **ひろがるつながる**

ムの作成・実施を手がけている。

ネイチャーゲームは、エコツアー中や、普段のガイド業務の中にさりげなく取り入れることも多いそう。

「ネイチャーゲームを地域の自然環境や文化を踏まえアレンジすることにより、時に言葉で伝えるよりも深くゲストの印象に残り、効果的です。」とセンターガイドの鷲見さん。単に移動するだけのツアーではなく、心と体で釧路湿原の素晴



エコツーリズム


 塘路ネイチャーセンター
 TORO Nature Center

2011年度各種助成金活用状況の報告

全国のネイチャーゲーム組織や会員の皆さまの協力をいただきながら各種事業に取り組みました。

●報告1 スポーツ振興くじ助成事業

- ・地域ネイチャーゲーム教室 37会場予定
- ・地域ネイチャーゲームセミナー 54会場予定
- ・広報ツール（広報誌・チラシ・ウェブページ）の作成

●報告2 子どもゆめ基金助成活動

- ・五感で自然再発見！子どもたちの森アートプロジェクト 41会場予定

東日本大震災復興支援活動報告

全国銘菓お茶っこ広場（被災者の交流の場づくり）を、岩手・宮城の仮設住宅で毎月第3日曜日に開催しています。お菓子の送付やボランティア活動への参加を随時募集中です！詳しくはホームページをご覧ください。



理事会・総会のご報告

○日本協会理事会・総会の報告

平成23年度第3回理事会、第29回総会が2月に開催され、以下の議案が承認されました。

平成24年度正味財産増減予算（単位：千円）

I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	2
②受取入会金	639
③受取会費	34,887
④事業収益	80,766
⑤受取民間助成金	2,528
⑥雑収益	6
経常収益計	118,828
(2) 経常費用	
①事業費	105,950
②管理費	12,878
経常費用計	118,828
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	43,213
一般正味財産期末残高	43,213

II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	43,213



その他の議案

- ・平成24年度事業計画
- ・新定款案
- ・役員規程案
- ・会員及び会費規程案
- ・加盟団体規程案
- ・普及ライセンス統一契約書改訂案
- ・都道府県シェアリングネイチャー協会設置規程案
- ・地域実践団体設置規程案
- ・平成24年度スポーツ振興くじ助成申請
- ・都道府県シェアリングネイチャー協会モデル規約案
- ・地域ネイチャーゲームの会モデル規約案
- ・課程認定校ネイチャーゲーム研究会モデル規約案

地域ネイチャーゲームの会

設立 広島県 広島さとうやま

解散 北海道（のっぽろ／漁川）、福島県（三大明神）、茨城県（ちくせい）、群馬県（あかぎ）、埼玉県（川越）、東京都（江戸川区）、山梨県（甲府）、長野県（いな）、富山県（富山市／雷鳥）、岐阜県（おくみの／西美濃）、三重県（いなべ／伊勢五十鈴公園／名張）、兵庫県（ひょうご・丹波／ひょうご・淡路／ひょうご・しんさぎ）、奈良県（平城／明日香）、鳥取県（とっとり／大山）、愛媛県（松山／西伊予）、福岡県（むなかた）、鹿児島県（いづみ／おおすみ／さつま白砂／曾木の滝）、沖縄県（なふあ／なきじん）（これにより合計200会）

新インストラクター誕生

（都道府県、五十音順、敬称略） 合計22人
北海道（多々見ゆりか／田中住幸／馬場美佳）、東京都（水信亜衣）、神奈川県（瀬戸正功）、新潟県（鳥羽和明／松鷹知子）、富山県（萩原裕美）、滋賀県（近成英樹）、岡山県（梶原利廣／小堀響／高田学／戸田真弓／柳 純恵／山口雪子）、広島県（井田直子／佐藤正信）、徳島県（住友宣子／野本ふくみ／萩平真治）、高知県（兼松憲一）、福岡県（小湊正憲）

実践事例・研究報告 募集

下記の分野で事例を募集しています。是非ご応募ください！

※ホームページから、様式ダウンロード及び過去の事例・研究の閲覧できます。

○分野

1. 地域実践／2. 講師活動／3. コーディネート活動／4. 学校教育における活動／5. 幼児教育・保育における活動

○応募締切り：2012年3月31日

○応募方法：所定の様式に記入し、メールで応募。

○送付先：日本協会 事例・研究係
jirei@naturegame.or.jp

ネイチャーゲーム奨励賞募集

ネイチャーゲームに関するすぐれた実践や研究を奨励しています。積極的にご応募ください。

（自薦・他薦問いません）

- ・指導者養成部門（個人での実践活動・研究活動）
- ・普及部門（組織での実践活動・研究活動）

○応募締切り：2012年3月31日

○応募方法：指導員ハンドブック理論編（第6版）P.155,又はホームページ参照。

○送付先：日本協会 奨励賞係
shoreisho@naturegame.or.jp

専門委員会開催報告

●指導者養成委員会開催報告

12月19日

- ・全国研究大会岩手県会場開催についての進捗状況確認

- ・2012年度指導者養成事業全般についての確認

●第三回アクティビティ開発認定委員会開催報告

1月16日

新ネイチャーゲーム認定

●新ビジョン策定委員会

12月2日、1月17日 定款の目的や新しいビジョン案を議論

●地域支援委員会

1月16日 組織事業助成金、ブロック制度、組織のミッションについて議論

ネイチャーゲームを体験しよう！

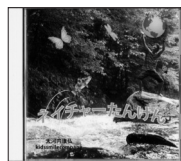
- ❖体験イベントは全国各地で参加できます
- ❖公認講師を呼んで体験会や研修会が開催できます
- ❖リーダー養成講座ではより深い体験ができます

リーダー養成講座 ▶

ネイチャーゲームに関する情報はwebで
<http://www.naturegame.or.jp/>



読者プレゼント



1 ネイチャーたんけんCD 1,500円 1名様

「自然を丸かじりっ」コーナーでご紹介した「ネイチャーたんけん」と、他5曲の自然あそび歌、カラオケを収録したCD。すぐに覚えられのたのしい曲ばかり！振付けブックレット付きです。

(提供：大河内康弘さん)

レッツネイチャーたんけん！

2 木のかみ

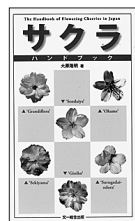
3名様

吉野の森の間伐材を利用してつくられた「木のかみ」。利用することが森を守ることにもつながり、木の手ざわりや匂いを感じながら、折り紙などのクラフトを楽しめます。

(提供：ハートツリー株式会社)



手ざわりと香りを楽しんで！



3 サクラハンドブック

1,200円(税別) 1名様

種類の見分けがとて難しいとされるサクラ。本書では、多品種のサクラのうち、広く分布する野生種11種類と、身近な栽培品種52種類を厳選し、調べやすく紹介しています。

(提供：ネイチャーゲームクラブ)

サクラの個性に出会える1冊！

【編集後記】

- ※東北応援は、民芸品や地産品など、日本文化の再発見にもつながってます。(しな)
- ※東日本大震災から1年。復興のためにできること、ささやかですけど続いています。(ちゃ)

表紙の写真

福島県いわき沿岸の海と空(撮影：酒井英治)
2011年11月にモーターパラグライダーから空撮。いわきの海は震災前も震災直後も、今も変わらず美しい。／写真集『かもめの視線で見た津波被害の記録』／DVD『かもめの視線』他作品多数
酒井英治HP⇒<http://sky410.com/>

Sharing Nature News Letter

ネイチャーゲームの森 第77号

発行日 2012年3月15日

発行人 西澤信雄

発行所 社団法人日本ネイチャーゲーム協会

〒160-0004

東京都新宿区四谷4-13-17 ワークスナカノ2F

TEL 03-5363-6010 FAX 03-5363-6013

<http://www.naturegame.or.jp>

jimukyoku@naturegame.or.jp

編集 佐々木香織・水信亜衣

デザイン 橋本陽子(ビー・ビー・エフ)

田崎恭子(リクバ)

第一資料印刷(株)

イラスト 安藤美紀子(P.6)

DTP 第一資料印刷(株)

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断掲載を禁じます。



この情報誌はスポーツ振興くじ助成金を受けて作成しています。

読者アンケート

本誌がさらに魅力的な情報誌になるように、読者の皆さまの声を聞かせて下さい！ アンケートに答えていただいた方の中から抽選でステキなプレゼントをさし上げます。プレゼント当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

読者プレゼント締め切り日 ▶▶▶ 4月15日

●あなたのお名前

●会員ID。(または、ご住所／電話番号)

●あなたはネイチャーゲームの会員になって何年たちますか？

☐ 1年未満 ☐ 1～3年 ☐ 3～5年 ☐ 5～10年 ☐ 10年以上 (年)

●本誌『ネイチャーゲームの森』についてご評価ください。また、その理由を聞かせてください。

A. 大変参考になる B. 参考になる C. 普通 D. 参考にならない
理由 ()

●今号の中で良かったコーナーに○、普通だったコーナーに△、いまひとつだったコーナーに△をつけてください。

Sharing Nature Column () イベントレポート ()
特集『ネイチャーゲーム活動と放射線被曝の問題』() 自然を丸かじりっ ()
シェアリングネイチャーを深めよう () ネイチャーゲームでひろがるつながる ()
テーマ別実践ヒント () NGニュース ()
ネイチャーゲームの達人から学ぶ () ネイチャーゲーム川柳 ()

●ネイチャーゲーム川柳の投稿、本誌へのご意見、ご要望等 自由にご記入ください。

●プレゼント希望(ご希望に添えない場合もあります。ご了承ください)

☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ どれでもOK ☐ プレゼント不要



FAX 返信

03-5363-6013

メール返信

mizushina@naturegame.or.jp

プレゼントの締め切り日を過ぎても、アンケートの返信は受け付けています。



ネイチャーゲーム川柳

ネイチャーゲームの面白い体験、失敗談、ちょっとした話を川柳でお楽しみください。

—— 特 選 ——

ゲームより

カエル飲むへビ

皆で見る

たかさん・石川県

その他9句

こどもより必死になるよジャンケンで (ボカボカさん/高知県)

六十でシイの実拾い目をこらす (リタイア組・高知県)

どんぐりを全部見つけて貯食なし (なくそう・石川県)

花粉症わたしの木はイヤ杉ひのき (とんび・兵庫県)

言い忘れアリの行列フレイムアウト (あぐり・千葉県)

まぶたあけ大青虫にぎやあ々のシャッター (のら・千葉県)

特徴をいくつ聞いても私だれ!? (しなの川・東京都)

吹いたけどダックじゃなくて豚コール (銀美・埼玉県)

わたしの木デモで冷や汗見つからない! (小次郎・東京都)

ネイチャーゲーム川柳 募集中!

あーあるある! と共感できる楽しい川柳をお待ちしています。特選の方にはプレゼントをお送りします! 投稿先→mizushina@naturegame.or.jp



第22回 全国ネイチャーゲーム研究大会 IN いわて 2012

® 林風舎

募集中!
2012年
6月1日(金)
3日(日)

つながろうニッポン。

基調講演&ワークショップ!
吉成 信夫 氏



よしなり のぶお
環境共生の精神を宮澤賢治に求め、エコロジカルな暮らしを提案している。岩手子ども環境研究所理事長、森と風のがっこう代表。

おでんせ、岩手へ!



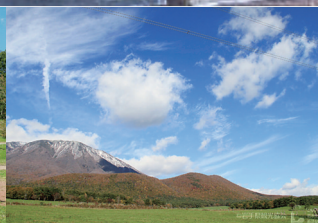
三陸の津波被災地



北上川



小岩井農場上丸牛舎



鞍掛山(手前、後方は岩手山)



森と風のがっこう

大会概要

テーマ: 抱きしめよう～復活の大地と海～ みちのくイーハトーブから

日程: 平成24年6月1日(金) 15:00～6月3日(日) 12:00 2泊3日

会場: 休暇村 岩手網張温泉

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町網張温泉

TEL: 019-693-2211

<http://www.qkamura.or.jp/iwate/>

主催: 社団法人日本ネイチャーゲーム協会 / 岩手県ネイチャーゲーム協会

後援: 文部科学省、環境省、農林水産省、国土交通省、岩手県教育委員会、(予定を含む) 関係市町教育委員会、NPO法人岩手県レクリエーション協会、東北自然体験学習リーダーズネットワーク

定員: 120名(先着順)

参加費: 会員32,000円、一般34,000円

単位: リーダー研修2単位(全日参加)

問合せの方に詳しい参加要項をお送りします。最新情報は日本協会HP専用ページをご覧ください。(注 <http://www.naturegame.or.jp/square/topics/001580.html>)

スケジュール

(状況によりプログラムを変更することがあります)

6/1(金)

14:00 受付開始

15:00 開会式

15:40 基調講演 & 対談

17:20 ワークショップ説明

18:30 ウェルカム・パーティー(夕食)

20:30 フリープログラム

6/2(土)

7:00 朝食

8:00 ワークショップ(予定)

被災地支援活動・鞍掛山登山・

小岩井農場プレミアムツアー・

森と風のがっこう体験・

北上川下り・森のリース創り

18:00 夕食

19:00 研究集会

21:00 フリープログラム

6/3(日)

7:00 朝食

9:00 ワークショップ成果発表

10:00 全体プログラム

11:30 閉会式

12:00 解散

アクセス

- 公共利用
盛岡駅から会場までの送迎バス(要予約)
- 自家用車利用
 - ①東北自動車道
盛岡IC→国道46号線秋田方面へ、会場まで約40分(26km)
 - ②東北自動車道
滝沢IC→国道4号線盛岡方面へ、会場まで約40分(24km)

3月22日(木)午前10時より申込受付を開始します【お名前、会員番号、メールアドレス、日中連絡のつく連絡先】をお知らせください。

社団法人日本ネイチャーゲーム協会

TEL 03-5363-6010 FAX 03-5363-6013 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-13-17

kenkyutai@naturegame.or.jp

URL <http://www.naturegame.or.jp/>

ワークスナカノ 2F



NATURE GAME®

地球と遊ぼう。
自然と話そう。